第7章　目標達成のための戦略

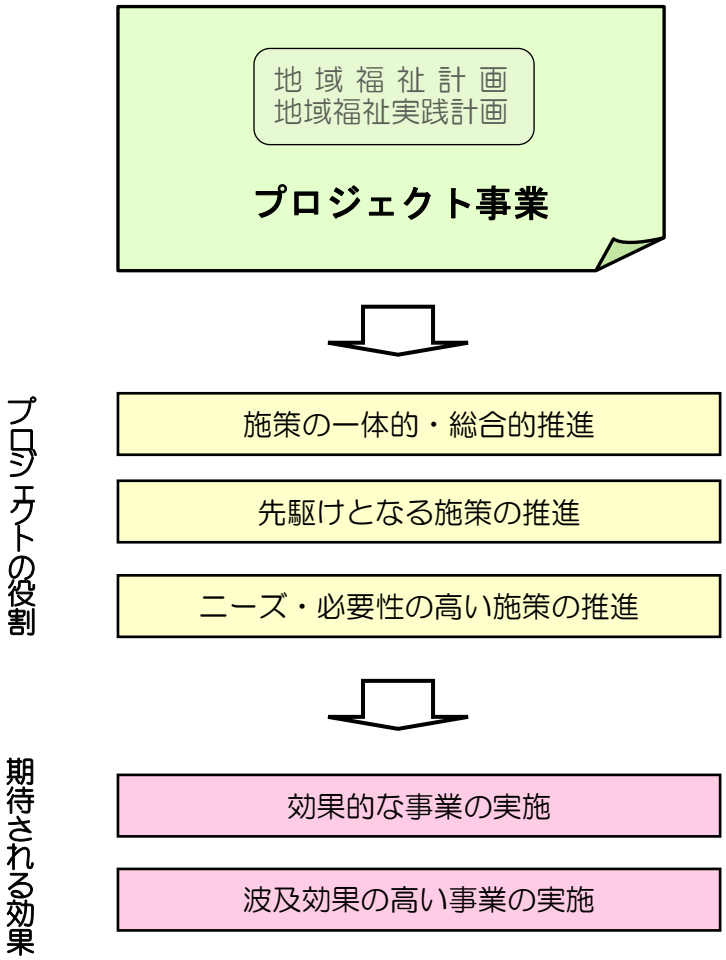
1　先導的･起動的プロジェクトの位置づけ

地域の実情の変化や生活様式の変化、制度改正など、それに伴い多様なニーズへ対応するために検討した本計画の福祉におけるまちづくりの実現に向けては、個々の施策を着実に実施していくことが必要であるとともに、相互に関連する施策や事業について、一体的、総合的に進めることが効率的かつ効果的に重要なことと考えられます。

また、ニーズや必要性の高い施策については、先行的・先駆的に事業を推進させることが望まれます。

「先導的・起動的プロジェクト」は、本計画を実効性あるものにするための役割を担う事業として位置づけ、福祉でのまちづくりを目標とするための本町における地域福祉の推進を図る中心となる施策です。

プロジェクト事業の役割



2 プロジェクト事業

（1）「みなくる農園」プロジェクト

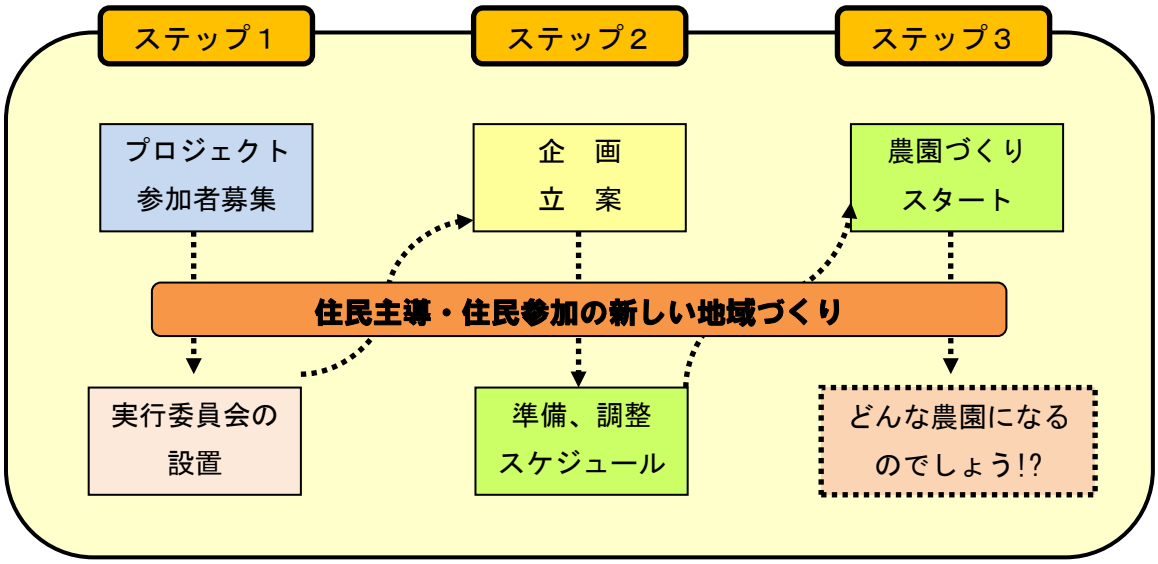
○プロジェクトのねらい

地域開放スペースで、身近な日常生活の中に社会参加と活動の場を設け、高齢者の体験想起や役割を担う環境、地域住民相互の協働による支え合いや、安心して暮らせる地域づくりを目指します。また、住民が日常的に交流できるよう子どもや若者等多世代交流の場として開放することで、高齢者から知恵を学び、また若年者から活力と明るい未来を感じ合える環境を作り出し地域の力を育てます。町民に開かれた空間を作り出すことで、多世代間のネットワークを構築し継続的な住民主導・住民参加の新しい地域づくりを目指します。

○プロジェクトの効果

・互いに支え合う生活の実感を得られます。
・高齢者の生きがい、健康づくり
・子どもたちの体験（泥まみれ、異世代交流）、農作業を通じた情操教育・成長を地域住民が見守り、喜びを共有する場
・地域住民の顔の見える関係づくりができ、多世代ネットワークの形成は継続的な地域の活力や住民意識を高めます。
・企画から実施までの行程、作業の開始から収穫、次年度計画の作成等プロセスの共有による信頼関係の構築が期待されます。

○プロジェクトの概要



（2）「たまり場」づくりプロジェクト

○プロジェクトのねらい

町内には、中高生や子育て親子が気軽に遊べる「たまり場」がそれほどありません。

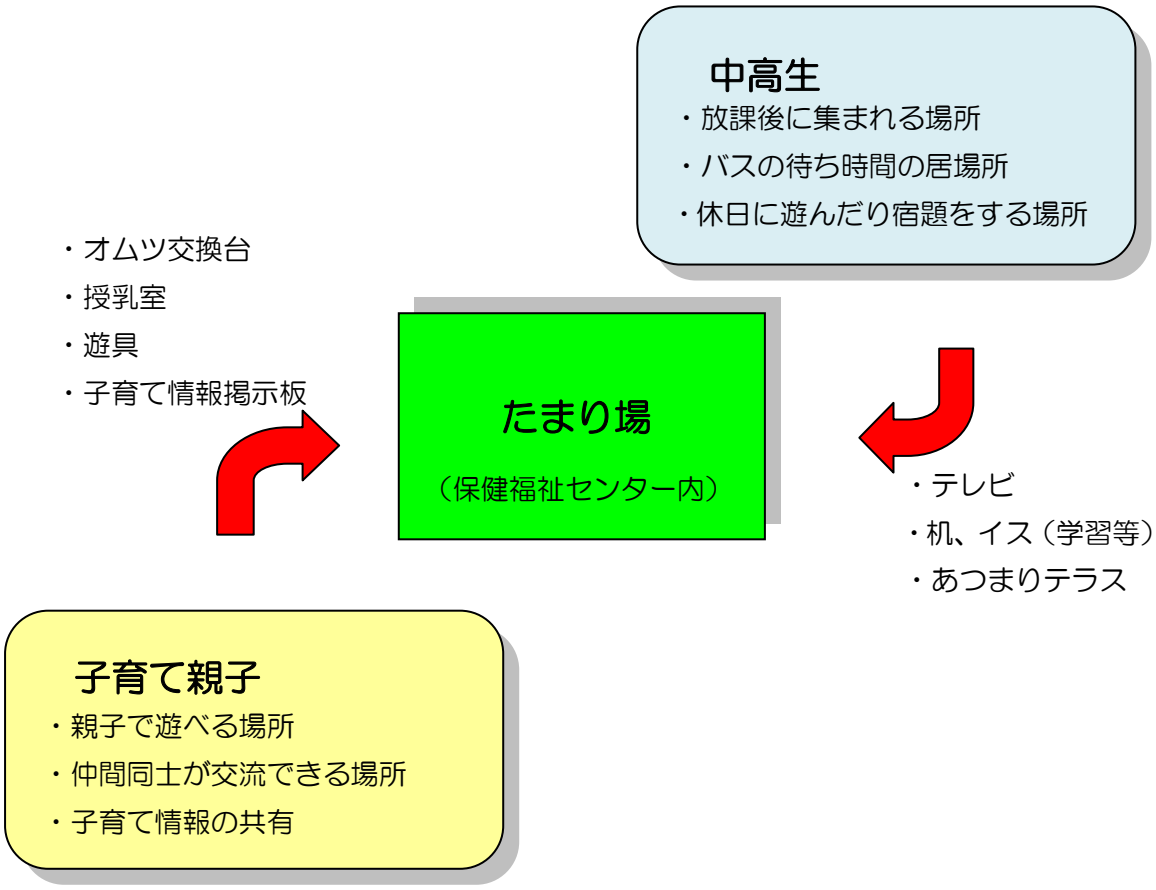
中高生については、放課後やバスの待ち時間に立ち寄れる場所、休日に遊んだり宿題をすることができる場所等をつくることで、家庭でも学校でもない中間的な場所で交流等を深めることができる「たまり場」を作ります。

また、子育て親子については、気軽に立ち寄って遊ぶことができる場所、オムツ交換や授乳できる場所、子育て情報を知ることができる場所等を作ることで、子育て親子同士が集まって交流等を深めることができる「たまり場」を作ります。

○プロジェクトの効果

・中高生が放課後及び休日の「たまり場」を作ることができる。
・子育て親子が集まって遊べる「たまり場」を作ることができる。
・子育て情報をはじめとして様々な情報を発信することができる。

○プロジェクトの概要



（3）高齢者・障がい者マッチングエコプロジェクト

○プロジェクトのねらい

高齢者や障がいのある人の社会的孤立を予防するために、活動の場若しくはその機会を整備する事により、社会参加の促進と共助関係の構築を目指します。

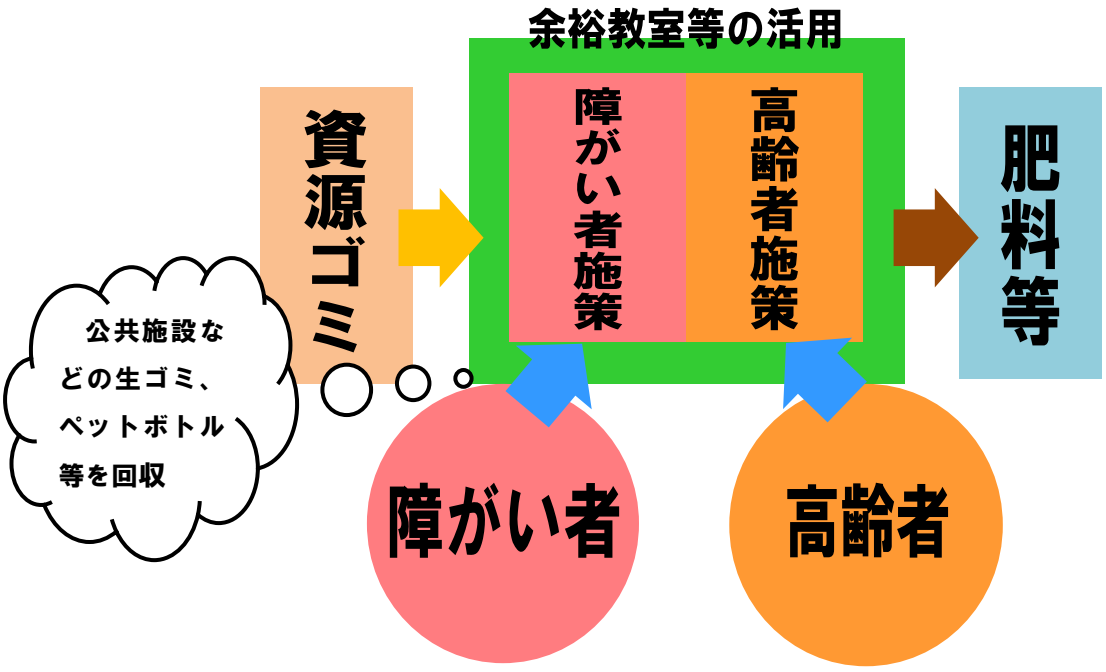
○プロジェクトの効果

・地域のシンボル的存在であった学校等（余裕教室）の公共施設を活用する事により、地域の人々の新たな活動の場として、対経費から見ても有効的な活用方法です。

・一つの建物内に複数の事業所が複合的に利用することにより、１事業所では広すぎる環境を有効的に活用する事が出来るとともに、障がいや世代間を越えた交流を通して社会参加の促進と共助関係の構築が期待できます。

・新たな雇用機会が創出されることにより、福祉を担う人材の育成が図られます。

○プロジェクトの概要



（４）保健医療福祉地域間連携プロジェクト

○プロジェクトのねらい

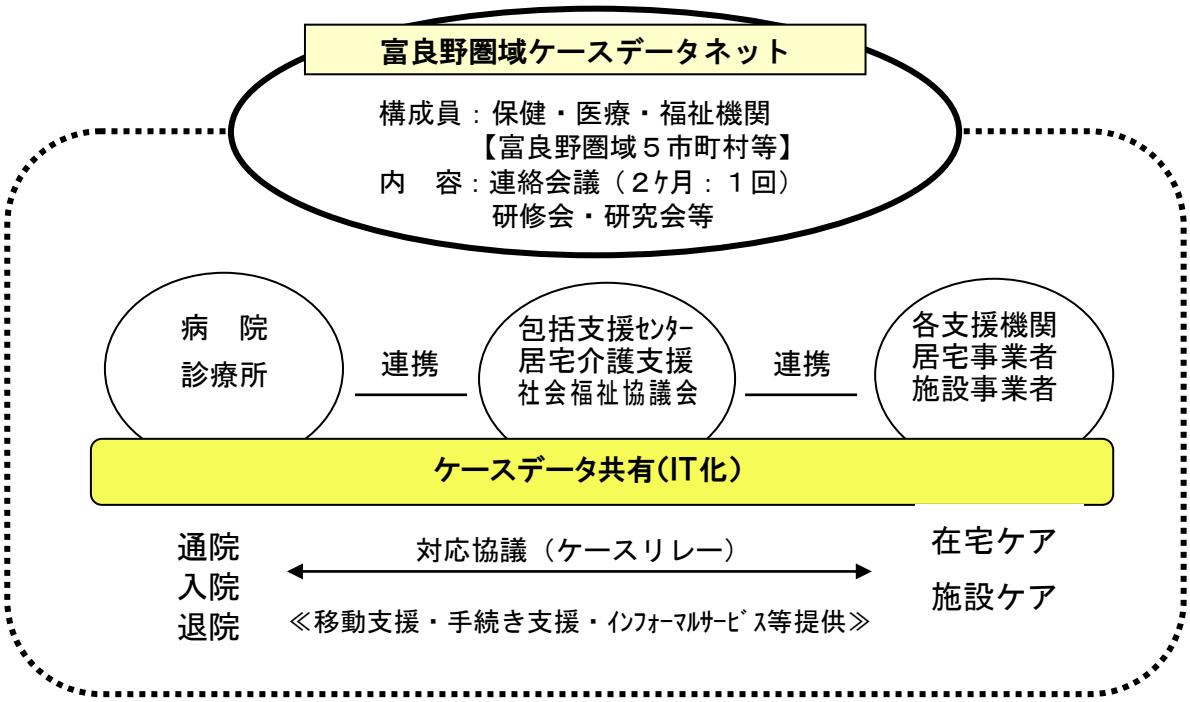
町民の生活圏である富良野圏域において、情報を一元化するシステムを構築し、ひとり暮らしの高齢者や認知症等の方が、普段の生活の様子が伝わり正しい情報のなかで安心して受診できたり、病気の早期発見・予防、入退院時等のスムーズな連携、地域生活支援・権利擁護・介護保険サービスへと繋げていくことで、住民の大きな関心事である医療との連携を強化します。

○プロジェクトの効果

個人の日常生活情報や個人を取り巻く地域の社会資源情報等をタイムリーに共有することで、ニーズに応じた適切なサービス提供が可能となり、入退院、ターミナルを含む切れ目のないケアが可能となります。

○プロジェクトの概要

「保健医療福祉情報連携システムの構築」



（5）元気高齢者（シニア）プロジェクト

○プロジェクトのねらい

元気高齢者（シニア）を地域に増やしていくため、地域活動（サロン・老人クラブ）や介護予防教室、生きがいデイサービスに参加できる機会を作り、ふまねっと運動、くもん学習療法、認知症サポーター研修を通して、認知症予防と歩行機能の改善を図ることで、自立した生活を継続できるよう取り組みます。

また、年齢を重ねると体力の低下や閉じこもりが多くなるため、認知症サポーターやふまねっとサポーターになることで、地域福祉の受け手から担い手へとなり、役割を持つことで社会参加の促進を図ります。

○プロジェクトの効果

認知症予防　・・・ふまねっと運動、くもん学習療法による認知機能低下の抑制
認知症サポーター研修による、認知症への理解

歩行機能の改善・・・ふまねっと運動による歩行機能の改善

社会参加の促進・・・ふまねっとサポーター、認知症サポーターとしての地域活動への協力

仲間づくり　・・・活動を通してできる仲間との交流

○プロジェクトの概要

（6）こども園の創設プロジェクト

○プロジェクトのねらい

保護者の就労の有無によって利用施設が限定されていた児童福祉サービスについて、少子化の進行により集団活動や異年齢交流の機会が減少しています。また、核家族化に伴い、子育てに不安や負担を感じる保護者が増える中で、地域の子育て支援が不足しているのが現状です。

そこで、育児相談をはじめとした子育て支援が受けられる環境を整備し、保護者の就労の有無に関わらず 0 歳～就学前のすべての子どもが利用可能になり、適切な規模の子ども集団を保ち、すこやかな育ちを支援します。

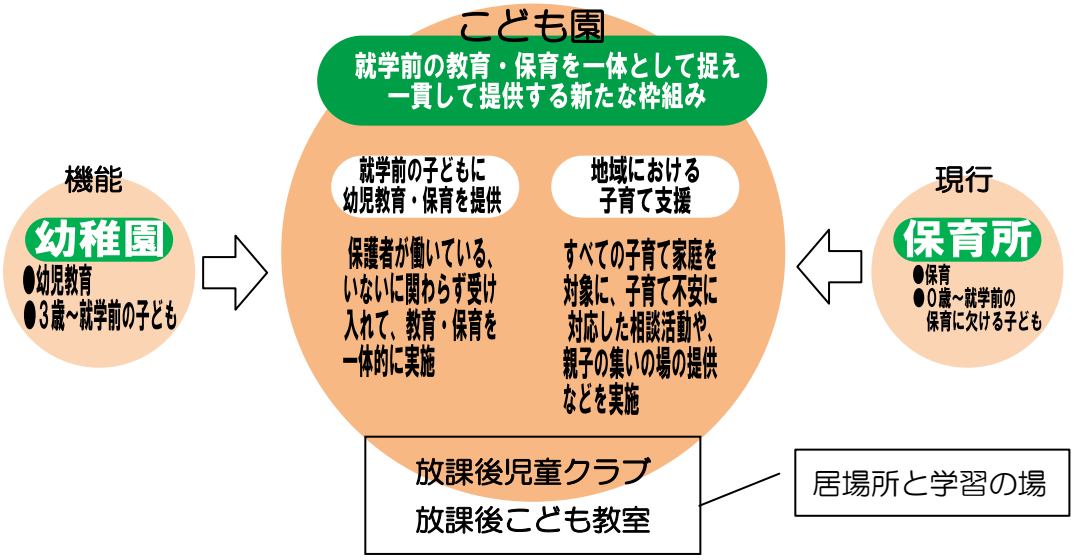
○プロジェクトの効果

・保護者の就労にかかわらず、教育・保育を一体的に受けることができる。
・すべての家庭を対象に、子育て不安に対応した相談活動や集いの場を提供できる。

○プロジェクトの概要

1 就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能

2 地域における子育て支援を行う機能



（7）地域包括ケアプロジェクト

○プロジェクトのねらい

社会福祉協議会や地域包括支援センター機能を強化して、ボランティアや民間企業などの参加による見守り活動の強化やサロン事業など地域住民主体のインフォーマルサービスの充実を図ります。

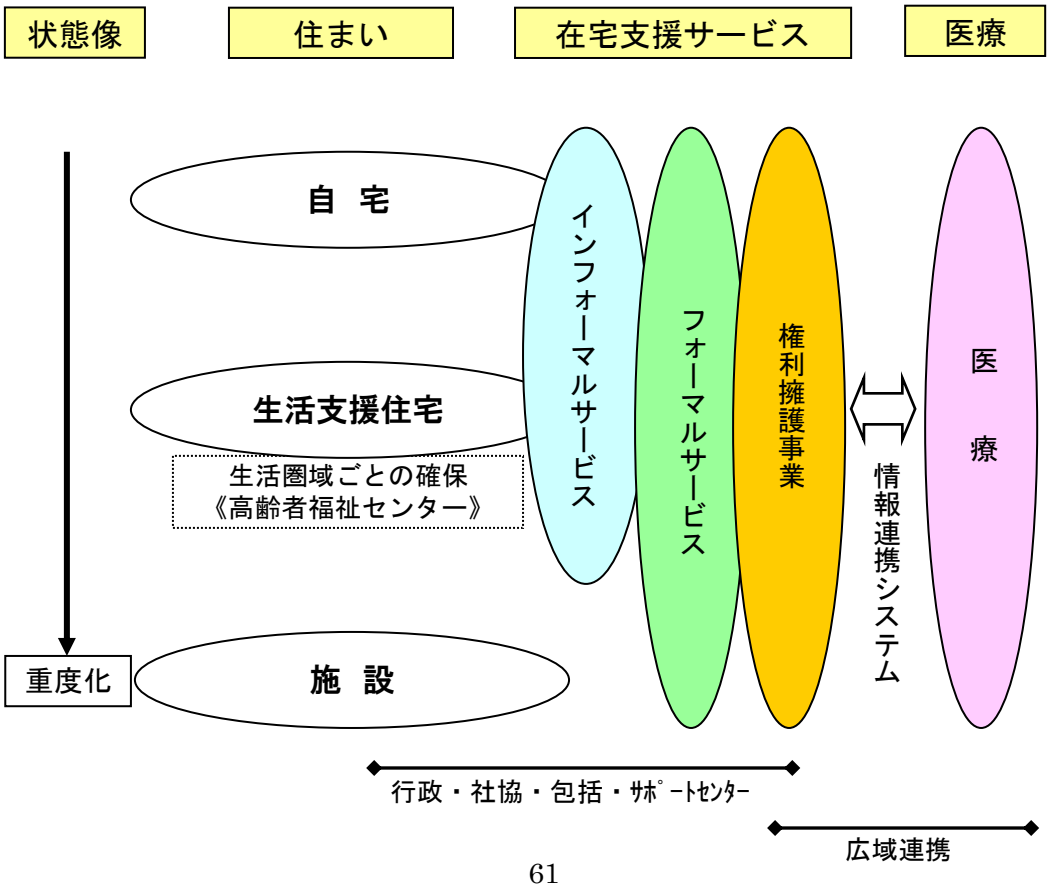
今後さらに増加すると考えられる認知症高齢者や地域に住む障がい者（知的・精神）の権利を尊厳して、安全に住み続けるために生活サポートセンターによる権利擁護事業の一層の推進を図ります。

また、将来にわたって安心して住み続けるためには、高齢者の生活能力等に応じた住まいの確保が重要な施策となり、地域の実情を勘案しながら、生活圏域において生活支援住宅の整備を図ります。

○プロジェクトの効果

・長年住み慣れた地域で、安心して生活をおくれることができる。
・個々の状況や変化に応じたサービスの提供と多様な生活支援ができる。
・認知症になってもできる限り継続して生活することができる。
・医療機関との連携により、退院後の適切な在宅ケア等が推進される。

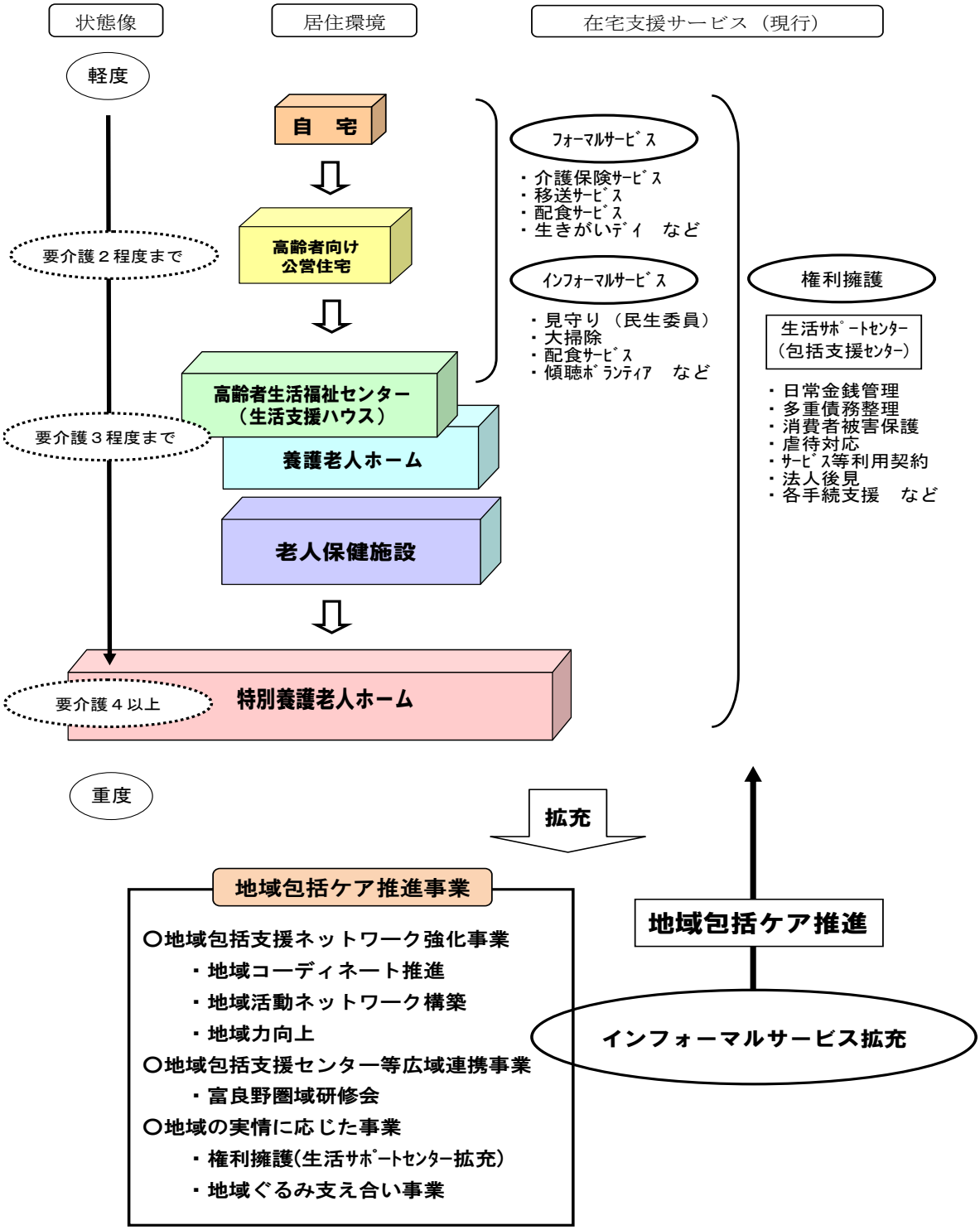
○プロジェクトの概要



地域包括ケア体制の整備（モデル事業：22 年度～23 年度）

本町の地域包括ケアの推進は、従前からの状態像に応じた居住環境支援と各種在宅支援サービス、生活サポートセンターによる権利擁護事業をモデル事業の実施によりさらに強化するとともに、新たなインフォーマルサービスを展開するものです。

介護保険外サービスやボランティアによる、見守りと相談援助の 24 時間化などを積極的に推進します。



南富良野町「地域包括ケアシステム」を構築するための方針

区分	システム		機　　能	具体的内容	現行の取組み	今後の取組み（計画）
入口	課題発見・抽出		①情報発信・集約	地域住民が、医療・福祉・介護をはじめ、各種の生活場面で利用できる制度やサービス、社会資源に関する情報が行き届く機能	・地域包括支援センター（総合相談） ・生活サポートセンター ・地域座談会 ・地域支援調整会議	・広報活動
			②対象者早期発見	日常生活、社会生活において何らかの支援を必要としている人に近隣住民や関係者等がいち早く気付き専門機関につなげられる機能	・民生委員児童委員活動 ・社会福祉協議会（小地域ネットワーク） ・サロン「拠り所」 ・高齢者実態把握調査	・「くらしの通報」ネットワーク
			③地域教育・啓発	地域の生活課題の早期発見のために、地域住民や関係機関の意識づくりを行う機能	・寄ってたかって幸せ講座（社協） ・障害者自立支援協議会 ・介護予防教室 ・いきいき脳の健康教室	・富良野エリア権利擁護ネットワーク事業 ⇒ 研修会 ・お互いさま講座（社協）
出口	個別支援	個別課題解決	④早期対応	ケースの問題解決のために、早期に専門機関がアプローチして、必要な制度やサービス、社会資源と結びつける機能	・地域包括支援センター（総合相談） ・生活サポートセンター	・地域支援調整会議
			⑤スーパービジョン	支援を行うなかで、解決が難しいケースについて、また高度な専門的知識・技術を要する事例について、専門的助言・指導を得ることができる機能	・地域包括支援センター ・生活サポートセンター ・福祉サービスネット会議	・富良野エリア地域ケア会議（広域）
	地域支援	情報共有 地域課題解決	⑥社会資源・システムの改善・開発	地域の普遍的・共通的課題を共有し、解決のために既存サービス・資源・システムの有効活用をはじめ、利用しにくいものの改善や既存のもののつなぎ、不足しているものの開発を行う機能	・地域福祉計画（町） ・地域福祉実践計画（社協） ・障害者自立支援協議会 ・福祉サービスネット会議 ・地域ケア会議	・富良野エリア権利擁護ネットワーク事業 ⇒ 市民後見人養成講座
			⑦連携・ネットワーク	個別ケースのみならず、地域課題の解決のために地域住民と関係機関（フォーマル・インフォーマル）が連携・協働する機能	・サロン「拠り所」 ・小地域ネットワーク活動 ・地域ケア会議 ・ぷらっと会社	・富良野エリア地域ケア会議 ・富良野エリア権利擁護ネットワーク事業 ⇒ 保健医療福祉情報連携（IT 化） ・地域支援調整会議

（8）町民後見人養成プロジェクト

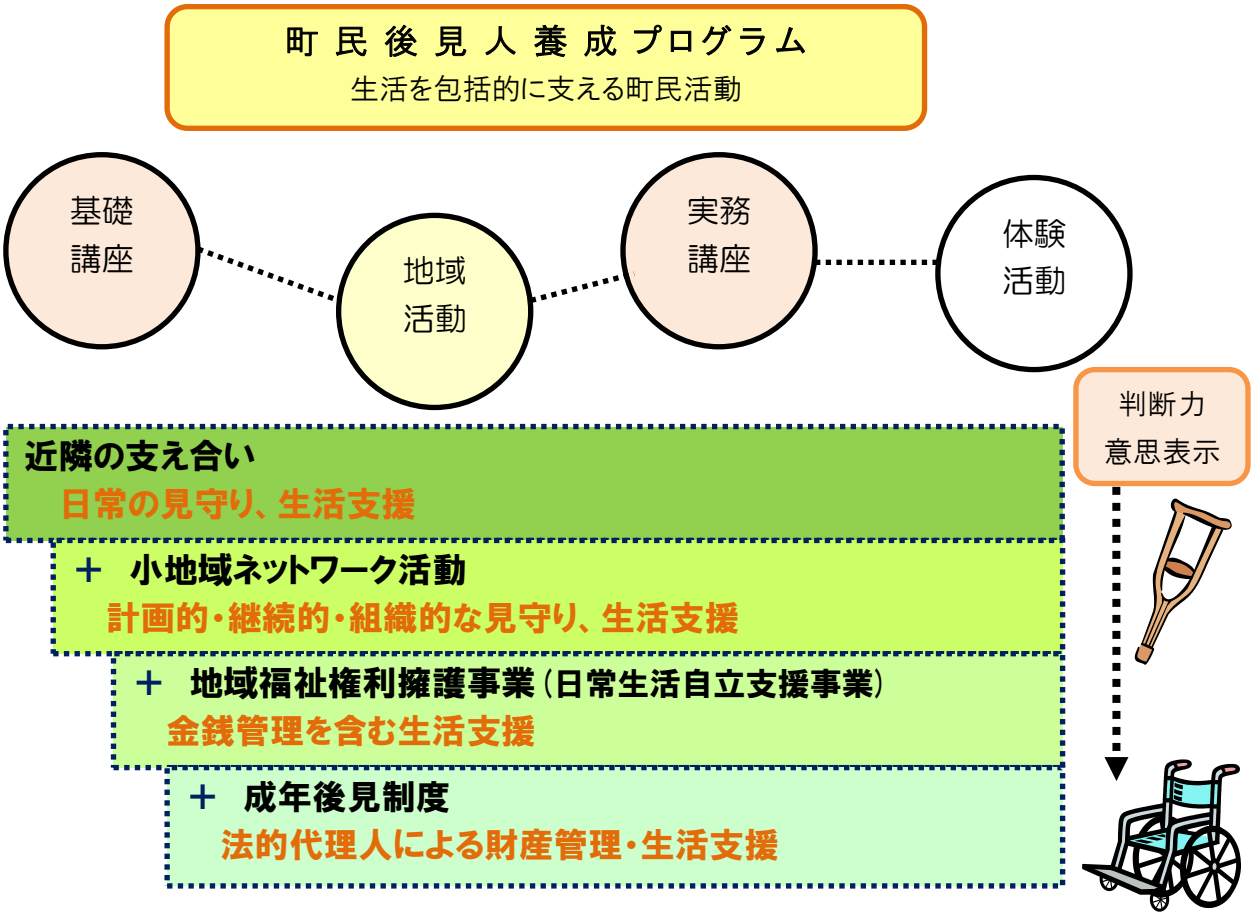
○プロジェクトのねらい

財産管理だけではなく、生活を支える細やかな後見のあり方が求められており、被後見人に最も近い生活者の目線で後見業務を担う町民後見人の養成について、養成講座を実施支援する大学と連携し開催します。また、後見人を支える仕組みとして、生活サポートセンターが地域に密着した権利擁護拠点となるよう再構築します。

○プロジェクトの効果

その人らしい、普通の生活を後見するために、町民による後見を基本とすることで、人生経験豊かな中高年の活躍が期待でき、地域の再生に繋がり、「安心」と「活力」が生まれます。

○プロジェクトの概要



（9）福祉ファンドプロジェクト

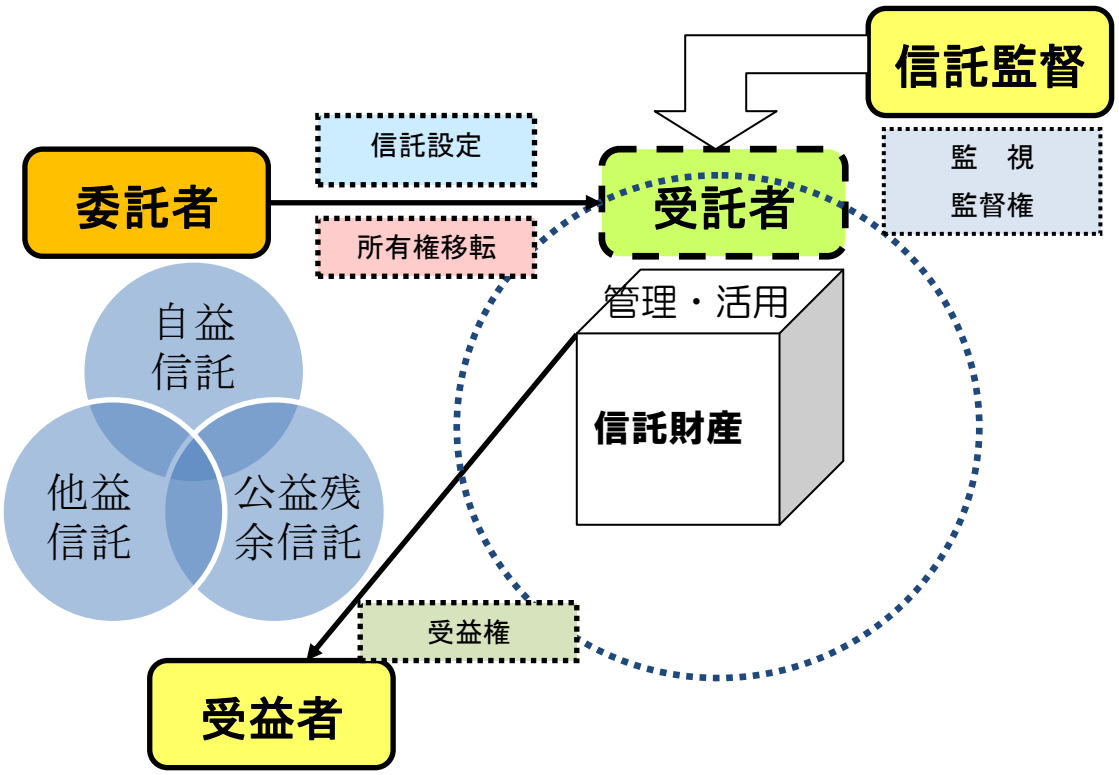
○プロジェクトのねらい

高齢者や障がい者、離職者等の生活支援のための信託として、多様な生活実態に対応し、地域を活性化するため、新しい支え合いの仕組みとして福祉ファンドの検討、実施を目指します。

○プロジェクトの効果

障がいのあるわが子の将来に不安を抱く親、財産を残して亡くなる高齢者、不景気や事業の失敗により借金に苦しむ働きざかりの世代等、委託者と受益者のニーズを結び、成年後見制度の補完、新しい支え合い・財産管理の手法として、身近で便利、細やかな対応が可能になります。委託者のニーズに即した自由な意思に基づいた「柔軟性」と「多様性」のある信託スキームを構築することで地域の活性化につながります。

○プロジェクトの概要



（１０）災害プロジェクト

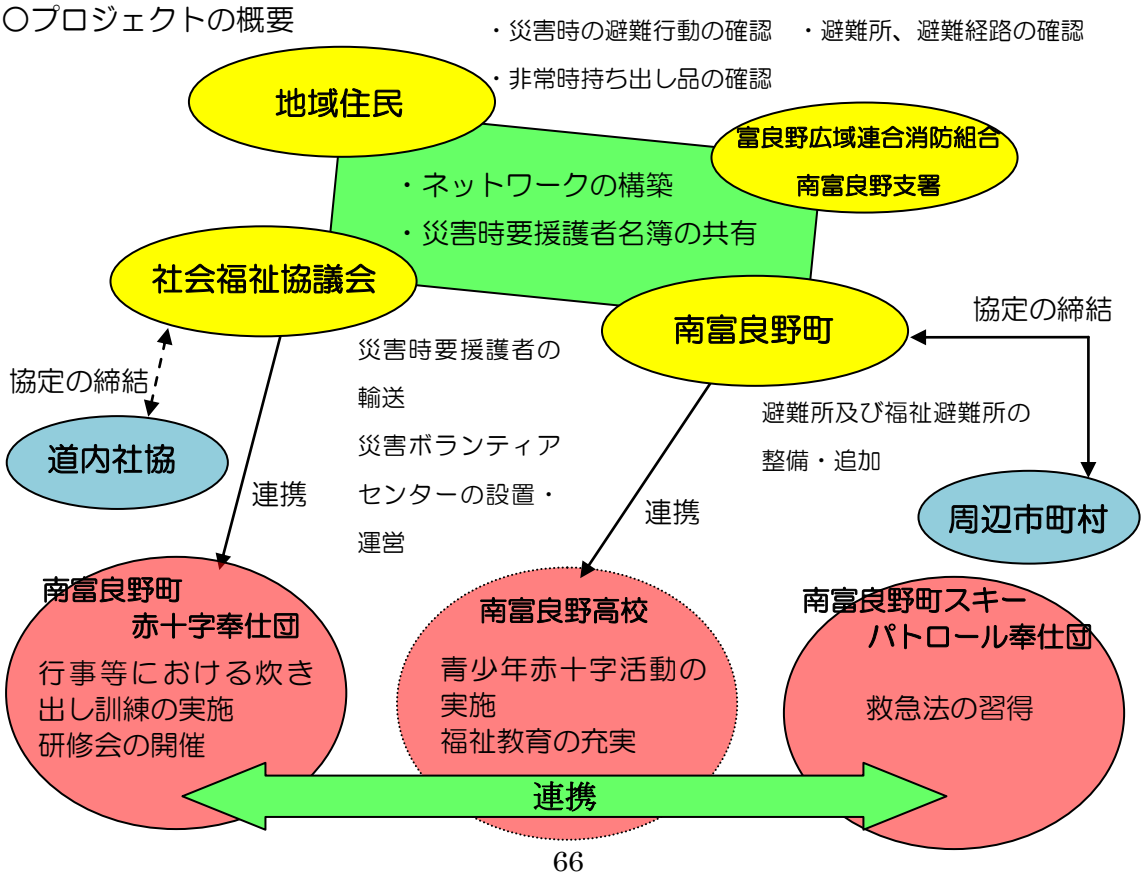
○プロジェクトのねらい

災害が発生した際、住民の生命を守るため、住民の災害に関する知識や身の回りの準備等防災意識の向上を図ること、避難所及び福祉避難所の整備・追加を行うことで、万が一の災害に備えます。

関係機関により災害時要援護者名簿を作成し、それを共有することで、災害の際に災害時要援護者が迅速に避難できるようネットワークの構築を行います。

また、赤十字奉仕団・スキーパトロール奉仕団等により炊き出し訓練や研修会等を開催し、知識や技術の習得、奉仕団間の連携を強めるとともに、南富良野高校において青少年赤十字活動を行い、学校教育の中で様々な活動に取り組むことで福祉教育を充実させていきます。

○プロジェクトの効果

・住民の防災意識の向上
・避難所及び福祉避難所の整備・追加による緊急避難場所の確保
・研修、訓練による知識の習得
・町内各奉仕団の連携
・関係機関における災害時要援護者の把握によるネットワークの構築
・町内外における災害支援協定の締結

○プロジェクトの概要